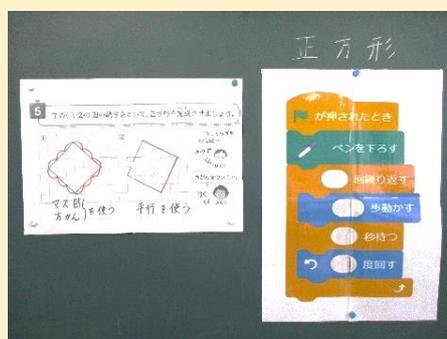
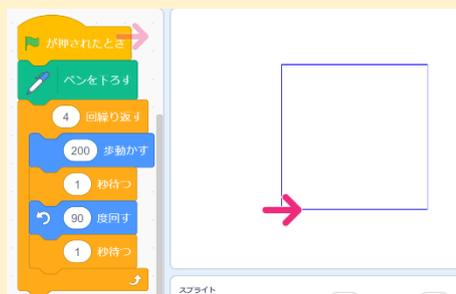


1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	矢掛町立矢掛小学校	実践者名	西川 義孝
教科	算数科	学年	特別支援学級第4学年
活用内容	自分の考えを表す 考えを交流する	実践日	令和3年11月8日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	「垂直、平行と四角形」 既習事項を使ってプログラミングで正方形をかくことで、正方形の形を捉え直すことができる。		
活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)			
【前時まで】児童は「角の大きさ」の授業でもScratchによる作図を学習している。			
【本時】 (1) 本時のめあてをつかむ。 ・前時に手書きで書いた正方形について、本時ではプログラミングで書くことを伝える。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> めあて 習ったことを使ってプログラミングで正方形をかこう。 </div>			
(2) 自分の考えをもつ。 ・ワークシートに正方形の特徴(「4つの辺が同じ長さ」・「直角が4つ」)を記入し、前時に行った手書きとの違いを確認したり、プログラミングに必要な数値を入れたりすることで、作図の見通しをもたせる。 ・プログラムを作成し、作図する。 ・うまくかけない時にはどのように数値を変えればよいか助言する。			
(3) 話し合う。 ・パソコン画面をテレビに映し、作成したプログラムと正方形を見合いながら、正方形の特徴がプログラムのどの部分と対応するのか、なぜこの数値を入れたのかを話し合う。			
(4) 本時のまとめと振り返りを行う。 ・手書きとの違いや正方形の特徴、垂直や平行が使われていることについて再度確認する。 ・分かったことや頑張ったことなど、本時の授業を振り返り、ワークシートに記述する。			
実践者の手ごたえ		児童生徒・保護者等の主な反応や声	
本実践では、プログラミング的思考を発揮して既習事項を活用して作図することができた。4年生の授業ではこの他にも「角の大きさ」や「平行四辺形・ひし形」の学習でもプログラミングによる作図が行え、継続した学習が可能となる。今回は特別支援学級での実践だが、通常学級でも実践可能である。		(児童のようす) 定規や分度器を使うことに苦手意識をもっている児童は、プログラムを活用すると、簡単かつ正確に様々な図形を作図できることに喜びを感じていた。	



左：学習課題
右：作成したプログラム



児童のプログラミング作成画面